

WE THINGS

GOOD MANNERS DOG TRAINING

第四章  
共通言語

お散歩中の許可  
許可を使った拾い食い  
許可を使ったご挨拶  
許可を使った自由

第三章で述べたように、散歩中はなるべく楽しんでほしいので、犬の希望を叶えてあげたいのが正直な気持ちです。

ですが様々な事情で全てが叶えられるものではないという状況で私達は生活しています。また、犬の生死に関わる危険もたくさん潜んでいるので危険を未然に防ぐための「管理」が必要になってきます。

日常生活に置き換えてみると具体的にどういうシチュエーションが想定できるでしょうか。

周りに配慮をしないといけない状況とは…

- ・住宅街で吠えてはいけない
- ・他人に飛びついてはいけない
- ・よその敷地に立ち入ってはいけない
- ・そこらかしこに排泄してはいけない

更に、愛犬の命を守らないといけないような状況とは…

- ・車やバイク、自転車がビュンビュン傍を通る道を歩かなくてはいけない
- ・ある建物の周りは除草剤等がまかれていて、においを嗅ぐどころか近づけない
- ・バツタリ出くわした他犬は犬が苦手な避けて通ってあげないといけない
- ・正体不明の物体が道端に落ちている

etc...



細かくいうともっともっと沢山ありますが、ざっと挙げるだけでも想定できることはこれだけあります。

こんな状況が無難に対処するだけでも一苦勞ですが、そんな時愛犬が「おかあさん！あそこ気になるー嗅ぎたいー！」とか「おとうさん！あそこに落ちてるモノ調べたいー！」と事前に報告してくれて、さらにこちらの判断を仰いでくれたらこんなに楽で助かることはないと思いませんか。

やりようによっては、それができるのです。

そのために「管理」の1つである「許可」のルールを徹底することによって犬に起きかねない危険を未然に防ぐどころか、愛犬の要求も同時に満たしてあげる事ができると考えています。

ルールというと堅苦しいですが、“許可制”は犬と人との共通言語の1つであると考えています。

この共通言語を通してご愛犬とのコミュニケーションを楽しんでくだされば嬉しいです。

そして、このようなコミュニケーションを取っている光景は、周りにいる人の感じる印象もプラスになると考えています。

「ダメよ」とか「いけない」というような否定ばかりの言葉が聞こえてくると、マイナスなイメージがどうしても生まれます。



別の状況ではもしかしたら「犬は叱って言わないといけないんだ」という認識を犬と暮らしていない人が持つかもしれません。

そうすると、初対面であろうがなんだろうが、怒った様子で犬に接する事があたり前だと理解する人もいるでしょう。

でも、「いいよ」とか「OK」と犬に言う時はきっと怒りながら言わないはずです。

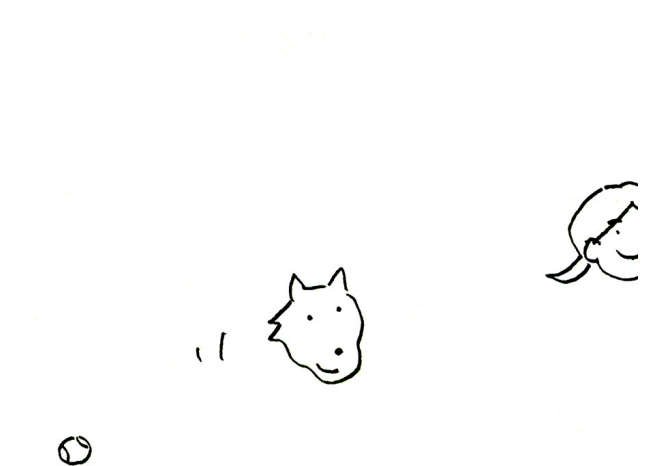
そんな楽しそうな光景を通りかかった人や犬と暮らしていない人が見たときに、マイナスな気持ちになる事はないでしょう。

世の中には当然ですが、様々な人たちがいます。  
その中には犬が苦手と思っている人もたくさんいます。

苦手な人が犬を怒っている様な光景を目にした時、さらにそのマイナスなイメージが増すのでは無いでしょうか。

遠いように感じますが犬に対するプラスなイメージが広がる事で、犬が苦手と思っている人への配慮もできます。全ての人と犬が仲良く！なんて事ではなく、社会にいるみんなが暮らしやすいという事が理想的ですよ。

社会への配慮をすることで、結果的に犬たちの暮らしの向上にもつながるはずですよ。



ここからは許可を実際に使った例をいくつかご紹介します。

・ 許可を使った拾い食い

楽しく犬と歩いていたはずなのに、気が付けば犬が下を向いたまま、しかもどうやら口がモグモグしている。

慌てて犬の口から取り出して、飲み込みはしなかったものの、ヒヤッとする状況を目にする事があります。

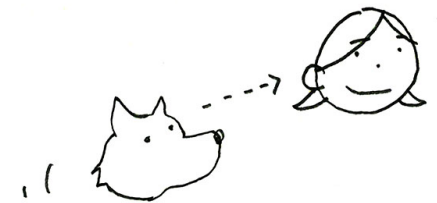
そんな時、慌てて取り出すのは大変なので許可をして落ちてる物を犬に食べさせましょう。

という事ではなく、食べたい物を見つけたら『まずは報告してね』の“許可”のルールがここで応用できます。

\*流れ

- ①報告してくれた事に対して、褒める言葉を掛ける
- ②犬の希望している物を確認  
>大丈夫な物であることを確認出来た
- ③許可（「OK」の合図）をしてその物を手に入れさせてあげる

もし、大丈夫ではないもの（例えばフライドチキンらしきものの骨やスナック菓子などの袋等）だったときは代替りの物を提供します。



ちなみに私はおやつや、おもちゃで手を打ってもらう事が多いですが、せっかく報告してくれたのにも関わらずそれに対して人が何も反応しないと、犬はがっかりします。

そしてそういった事が繰り返されると、「報告しても何もないんだ」と犬が理解し、せっかくしてくれるようになった報告をしなくなるでしょう。

ですので、反応を返すという事を忘れないようにするのが重要ですね。

- 許可を使った自由

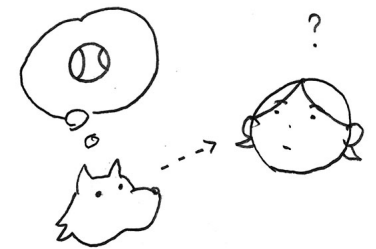
お散歩中、さっきから走りたそうにうずうずしているし、この広場やあそこのドッグランで思いっきり走らせてあげよう！とか、先述したように、いろんな情報を確認したそうだから思う存分匂いを嗅いだりさせてあげよう！など、せっかくのお散歩ですから、犬の思うように自由にさせてあげたいですよ。

なので、家から一歩外に出たらどうぞあなたのご自由に、と全てに許可をしましょう。

と言う事ではなく、自由にしたい時には『まずは報告してね』の“許可”のルールがここで応用できます。

\*流れ

- ①報告してくれた事に対して、褒める言葉を言う
  - ②自由にさせてあげられる環境であるか確認
  - ③問題なさそうであれば許可の合図（「OK」）を言う
- ここから自由時間の始まりです。



状況によってはそこにはすでにたくさん犬がいたり、工事をしていたりと叶えてあげられない状況だった場合は、代替りの物を提供します。

\*流れ

- ①報告してくれた事に対して、褒める言葉を言う
- ②自由にさせてあげられる環境であるか確認
- ③自由にできない状況であることを判断
- ④代替りの物を提供

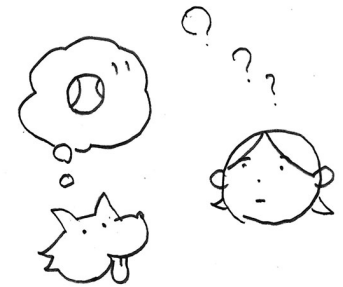
ちなみに私は少しその場から離れて、おもちゃで遊ぶ事で手を打ってもらう事が多いのですが、せっかく報告してくれたのにも関わらずそれに対して人が何も反応しないと、パートナーはがっかりします。

そしてそういった事が繰り返されると、「報告しても何もないんだ」とパートナーが理解し、せっかくしてくれるようになった報告をしなくなるでしょう。ですので、反応を返すと言う事を忘れないようにするのが重要ですね。

ここまでは自由についてのお話をしましたが、パートナーには楽しく快適に過ごしてほしいという思いは常にあるものの、やはりどうしても自由に出来ない状況や、安全の為に彼らの協力が必要な事も出てきますよね。

例えば道幅が狭くて向かってくる人への道を空けたり、犬が苦手そうな人が歩いていたりする事や、犬連れの人が向かってきたり等様々な状況があります。

そうすると、人の脚の横に付いて歩いたり、オスワリした状態で相手が通り過ぎるのを待つ事が必要な状況があります。



そういった状況の中では、時に社会の一員としてパートナーに協力してもらい、緩急をつけて生活するということも伝えていく必要がありますね。

・許可を使ったご挨拶

いつものお散歩コースのいつものあの場所で会ういつものあの子。  
そんないつものあの子と会う時でも、初めて会うこの子でも、自分のパートナーがご挨拶をしたいといっているならば是非許可しましょう。

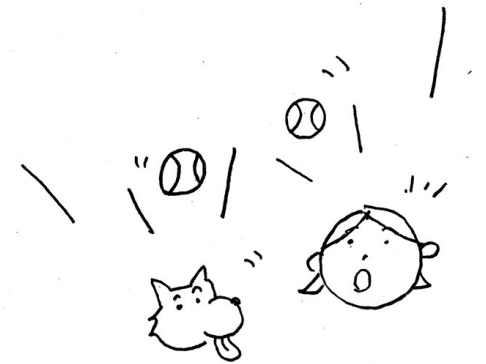
という事ではなく、ご挨拶したいと思ったら『まずは報告してね』のルールがここで応用できます。

挨拶したいパートナーの気持ちは尊重してあげたいところですが、場所や状況、もう1つ重要なのが相手の気持ちですね。

相手の犬は、他の犬と関わる事が苦手かもしれません。  
相手の飼い主さんは他の飼い主さんと関わるのが苦手かもしれません。  
もしくは相手のペアは何かの取り組み中かもしれません。

このように相手の方にも様々な気持ちがあります。  
パートナーが他の犬や人との関わりを求めている時は、相手への配慮をまず先に行う事が重要ですね。

自分のパートナーは相手の方へ行きたそうにしている  
(例えば、相手の方に引っ張って行く様な仕草があるなど)様子を  
確認したら、相手の犬はどういう様子なのか





(例えばこちらに向かって飼い主さんをリードで引っ張り、こちらの方に来たいような仕草をしていたり、顔を背けている仕草など)を確認します。

相手の犬の気持ちがわからなければ、飼い主さんに確認するのが良いですね。

もしも何らかの事情があってご挨拶が出来ない場合は代替りのものを提供します。

このような場合、私はそこから離れた場所で一緒に遊ぶ事で手を打ってもらえる事が多いですが、せっかく報告してくれたのにも関わらずそれに対して人が何も反応しないと、パートナーはがっかりします。

そしてそういった事が繰り返されると、「報告しても何もないんだ」とパートナーが理解し、せっかくしてくれるようになった報告をしなくなるでしょう。

ですので、反応を返すと言う事を忘れないようにするのが重要ですね  
\*流れなど、詳しくは次の第五章でご案内します。

もう1つ重要なことがあります。

ご自身のパートナーが逆の立場だった時はパートナーに配慮をしてあげてください。

相手の犬や人は挨拶したい様子だった時、自分のパートナーはそれを望んでいるのかどうかを是非確認して、犬の意見を聞いてあげてください。



そしてそんな時は、相手の方に少しその場で待ってもらいましょう。

距離も時間も取った状態でご自身の愛犬の意見を聞きます。

受け入れる様子であればここでも許可を使います。

ただ、もし関わりを持つ事を望んでいない様子であれば、相手の方へはお断りのご挨拶をどうかお願いします。

#### POINT

まずは第三章にある練習を行い、お家の中での成功率がアップしてから、外での練習を少しずつ進めます。

外で練習を始めるときも、家の時と同じようなステップアップの準備が大事です。

#### ※褒める

私は「そう、それ合ってるよ!」「それ、嬉しいよ!」などの気持ちを込めて「いいこ」という言葉を使ってパートナーがとった行動に対して返事をしている様な感覚で使用する事を<褒める>としています。「good」や「nice」などを使う方もいらっしゃいます。

#### ※ご案内

かい摘んだ内容のため実際のマンツーマンコースでは、それぞれの犬の状況によって他の方法を提案する事もありますので、参考程度に読んでくださいね。

